

## I Saw All America (その153) !!

— アメリカの流通の底力とは!! —

今、アメリカの経済及び流通は2008年9月のリーマンショックにより大不況になっています。アメリカの流通は、ウォルマート等の特定のバリュー業態しか成長しておらず、特にワンランク上の業態は20~30%もの売上を落としています。私はアメリカの流通には「底力」があると常日頃言っています。

アメリカの流通は、1950年代から1970年代まで順調に成長してきましたが、1980年代には不況に陥りました。これは1つは日本経済がアメリカ経済より優位になりアメリカ経済がそれにより苦境を迎えたのと、1970年代にアメリカの流通の買物の学習経験の終焉(商品を買いつけることが幸福と感ずる大衆消費社会の終焉)を迎えたのが同時に起こった結果です。

しかし、アメリカの1980年代の流通は、この経済不況に見事に対応して、アウトレットセンター、パワーセンター、カテゴリーキラー、ディスカウントストア、オフプライスストア、ホールセールクラブ等のバリュー業態が現れ大発展しました。まさに、1980年代はアメリカ流通業の底力をバリュー業態の出現により発揮した時代でした。これを、アメリカの流通の**第1の底力時代**と言います。

しかし、1990年代はITという史上初の産業(トフラーの第3の波の実現化)により奇跡的にアメリカ経済が大発展し、エンターテインメント(よろこびのビジネス)が流通に導入され、シネコン、レストラン、アミューズメント等の楽しい商業施設により、バリュー業態時代とは異なったエンターテインメントを基軸とした流通の時代になりました。これをアメリカの流通の**第2の底力時代**と言います。

さらに、2000年の初めにはエンターテインメントであるシネコンやアミューズメントが定番化して、第3のプレイス(居心地感のある場)を基軸とするライフスタイルセンターやタウンセンターが出現して、従来のNSC、CSC、RSC、パワーセンターとは異なった業態が出現しました。これをアメリカの流通の**第3の底力時代**と言います。

**今、まさに第4の底力を有する時代がアメリカの流通業に訪れています。**

リーマンショックによる未曾有の大不況によって、今ではエンターテインメントや第3のプレイスによる商業施設の流通業態も大苦戦しています。

過去3回のアメリカの流通の底力が発揮された時は、それが日本に波及されるまでには10年間の格差がありました。すなわち、買物の学習経験が終焉した時期は、アメリカが1970年代、日本は1980年代、バリューの時代はアメリカが1980年代、日本は1990年代、エンターテインメントの時代は、アメリカが1990年代、日本は2000年代、第3のプレイスの時代は、アメリカが2000年代、日本は2010年代(まだ本格的にきていない)でした。

しかし、今回のリーマンショックによる世界不況は、日米同時に起こり、**日米の流通業は同時に大苦戦**しています。

アメリカでは1980年に、日本は1990年代に第1次バリュー革命(顧客の価値の評価が2倍高まる時代)が起こり、バリュー革命は日米とも過去に一度経験しています。アメリカも日本も2回目のバリュー革命(2008~2011年)を迎え、1980年代にはアメリカは見事適合し、その後の流通の発展に結びつけました。しかし、1990年代の日本はユニクロ、しまむら等のごく一部しかバリュー革命に対応できず、GMSや百貨店は遅れをとり、今や衣料品は半分まで売上が低下しています。これを15年遅れの価値革命と言います。今、アメリカでは第2次バリュー革命の時代に、1980年代と同様のバリュー革命を開発しています。しかし、1980年代のような過去と全く異なる画期的なバリュー業態(例えばアウトレットセンターやパワーセンター)は見られず、過去の延長線上のバリュー版業態及びワンランク下版の業態変革に過ぎません。**本当のアメリカの第4の底力時代はまだ到来していません。**

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>  
代表 六 車 秀 之